

令和 2 年度 事業報告書

令和 2 年 4 月 1 日から
令和 3 年 3 月 31 日まで

公益財団法人アルカンシエール美術財団

理事長 原 俊夫

令和2年度事業報告

I. 事業事項

令和2年度 原美術館・ハラ ミュージアム アーク事業概況

令和2年度は、東京の原美術館にとって最後の年であったが、新型コロナ感染拡大による緊急事態宣言下で幕があげ、来館者および職員の安心安全を守るため、対応に終始した一年であった。

令和2年度の原美術館は開館日数163日(新型コロナウイルスによる臨時休館59日)、入館者総数は29,304名であった。3本の企画展を開催し、2021年1月11日をもって閉館した。

臨時休館で始まった当該年度は、6月9日より開館、「森村泰昌:エゴオブスクラ東京2020ーさまよえるニッポンの私」展で再開した。名画や映画の登場人物あるいは歴史上の人物に自らが扮するセルフポートレート作品で知られる森村は、本展で日本近現代史、文化史に言及し、「さまよえるニッポンの私」とは何かを模索した。会期初めには、東京オリンピックに沸く年に、日本を見つめ直そうという提案が反響を呼び、主要な新聞に大々的に取り上げられたが、コロナ禍で、感染防止対策を徹底しながら再開、本展の目玉であった、森村が登壇し、自作について語るレクチャーパフォーマンスは全て中止となった。感染状況を見極めつつ、7月23日からは「メルセデス・ベンツ アート・スコープ 2018-2020」展を開催した。「アート・スコープ」は、1991年から続くメルセデス・ベンツ日本による、日独の現代美術作家を相互に派遣・招聘し、交流を図る文化・芸術支援活動で、原美術館は、2003年よりパートナーをつとめ、滞在の成果を発表する展覧会を開催してきた。日本から久門剛史(2018年ベルリンへ派遣)、ドイツからハリス エパミノンダ(2019年東京へ招聘)、そして過去の「アート・スコープ」参加作家の中から、小泉明郎(2010年ベルリンへ派遣)を招待した。人の移動、作品輸送など、過去にない制限が課せられた中、三人共に可能な表現を模索しながら、現在の状況に対峙する新作を発表した。東京での最後の展覧会「光一呼吸 時をすくう5人」展は、オリンピック以前の開催を意識した企画であったが、状況を鑑み、時期をずらしての開催となった。写真を媒体とする今井智己、城戸保、佐藤時啓の新作に、当館コレクションから佐藤雅晴のアニメーションとリー・キットのインスタレーションが加わった。そこにある時間や空間に光をあて、自身を取り巻く社会の息遣いをかたちにし続けている5人の作品を通して、意識されぬまま過ぎ去る時を掬(すくい)、見過ごされがちな光景を救って、2020年のディテールを記憶に残そうと試みた。結果として“原美術館らしさ”を再認識するとともに、原美術館ARCへと繋ぐ展覧会となった。

令和2年度、原美術館は、普及事業として展覧会関連行事やメンバーシップイベントを催した。会話を伴う企画や人を動員するプログラムの開催が困難な中、秋以降は、出品作家の協力も得て、少人数ながらも安全にご参加いただける企画を実現、また「静かなゲリラリサイタル」と題し、展示の一部である自動演奏ピアノの録音風景を公開するなど、作品への理解を深めていただく機会を繰り返し提供した。さらに「Hara X」と題し、ボーカルや音楽ユニット、ダンサー等による公演をライブ、もしくは収録し映像を交えて期間限定で配信するイベントシリーズを8本実施した。北品川が立ち上げた新

しいパフォーミング・アーツ・フェスティバルの第一回目として開催した「北品川ゴーアラウンド！ 2020」では、昼の部で子供向けワークショップを開催。年末には、向井山朋子（ピアニスト/美術家）が美術館の庭やギャラリーでピアノの演奏を行った。ゲストに森山未来（ダンサー）を迎え、オランダを代表するシネマトグラファー、レニエ・ファン・ブルムレンが音楽とビジュアルストーリーを織り交ぜた音楽短編映画を録画、編集し、期間限定で配信した。

ハラ ミュージアム アークは、開館日数 156 日、入館者総数は 12,017 人であった。緊急事態宣言による臨時休館 32 日、施設の大規模改修工事のための臨時休館は、新型コロナウイルス感染拡大の影響も受けて、11 月 4 日より（年度をまたぎ）4 月 23 日までには及んだ。

現代美術ギャラリーにおいては、コレクションからのテーマ展を 2 本開催した。「ザ・ポートレート—原美術館コレクション」展は、4 月 10 日から東京同様に臨時休館となり、5 月 15 日から再開した。森村泰昌の「レンブラントシリーズ」全 24 点を中心に、現代美術史に名を残す国内外の作家たちによるポートレート作品の数々を展覧した。SNS の利用やスマートフォンによる撮影が一般化し、誰にとっても身近な関心事である「肖像」。普遍的なテーマではあるが多彩な表現が存在することを改めて紹介する機会となった。7 月 11 日からは、「きぼうのかたち—原美術館コレクション」を開催した。何かを表現し、誰かとそれを分かち合うことで互いを癒し、刺激し、勇気づけ、励まし合ってきた歴史の積み重ねの中で、ウイルスという見えない敵と対峙することになった時代だからこそ、〈きぼう〉をテーマに据え、現代美術作品のさまざまな表現を通して「生きる喜び」を再確認しようという試み。また 5 月に急逝したクリストによるコレクション作品 10 点をギャラリー C の一部屋で展覧し、生前の作家と原美術館との深いつながりを振り返る機会とした。

観海庵においては、「原六郎コレクションの名品」展と「競演—永徳・探幽・応挙」展（（途中展示替えあり）の 2 本を開催した。

名品展では、在家にありながら深く禅に帰依したとされる「靈昭女」を主題とした作品や、道術を究め風を御すことが出来たとされる列子を描いた雪村周継筆の「列子御風図」等、現代美術ギャラリーの「ザ・ポートレート」展に合わせ、原六郎コレクションの中から人物が描かれた作品を選び「肖像」の表現の多様性を展覧する機会とした。「競演」展では、桃山時代、大画面の襖絵など勇壮な障屏画を数多く手掛けた狩野永徳とその孫で徳川幕府の御用絵師となった狩野探幽による水墨画の競演、また狩野派とは一線を画し、自らの眼で確かめた風景や人物を写すことに徹して日本写生画の祖とされた円山応挙の「淀川兩岸図巻」等、桃山から江戸時代に活躍した三人の画人の作品を中心に紹介。応挙による鮮やかな彩色の「淀川兩岸図巻」は、今回初めて本図と下図を並べて展示し、同場面を比較できる試みは来館者から好評を博した。

普及事業として、毎年複数のプログラムを開催してきたが、感染拡大防止の観点から、ハラ ミュージアム アークにおける当該年度の普及事業は開催を断念した。

マスコミの取材による掲載件数は、原美術館は 209 件（和文媒体 195 件、外国語媒体 14 件）。ハラ ミュージアム アークは 230 件（和文媒体 224 件、外国語媒体 6 件）であった。

原美術館において、株式会社アーテックが当財団に委託され営業しているショップの年間利用客数は7,220名で対総入館者比24.6%、カフェ ダールは、年間利用客数が15,006名で対総入館者比51.2%。ハラ ミュージアム アークにおいて、株式会社アーテックが当財団に委託され営業しているショップの年間利用客数は2,198名で対総入館者比18.3%、カフェ ダールは、年間利用客数が3,583名で対総入館者比29.8%であった。

令和3年1月11日をもって一般公開を終了した後、原美術館は、屋内外常設作品の撤去作業に着手した。一部移動が困難で処分するものを除き、野外彫刻作品はハラ ミュージアム アークに輸送、2022年春を目途に順次、設置を進める。奈良美智、宮島達男、森村泰昌の常設インスタレーションは、撤去後速やかに移設を行い、既に2021年4月から装いも新たに、「原美術館 ARC」にて公開が始まっている。鈴木康広「募金箱 泉」、ジャン＝ピエール レイノー「ゼロの空間」、ナム ジュン パイク「ニーシェイン T」も、解体し群馬に輸送(5月半ば)、順次公開の予定である。また、改めて、敷地内に保管されていた原六郎の収集作品を調査し、新たに青磁香炉、仏画、光悦謡本等の存在が確認された。美術品と図書等資料を原家よりご寄贈いただいたことにより、原六郎コレクションは、より充実し、展示の可能性が広がった。

令和2年11月より、ハラ ミュージアム アークでは、翌年の春に迫った原美術館との統合に備え、大規模施設改修を開始した。ステージ部分の玄昌石タイトルの総入れ替えに始まり、13メートルの高さを持つピラミッド型のトップライトの洗浄、UVコーティング、屋根の塗装や、現代ギャラリーの床の塗装をすべて剥がし、無垢の状態に戻してから再塗装を行う作業や、現代ギャラリーの大扉や外周のグレーチング、トイレのリニューアル等メンテナンス及び旧収蔵庫の改装などを行った。また、年が明け奈良・宮島・森村による常設インスタレーション作品の展示スペースの施工などが実施された。新型コロナウイルス感染拡大による建設資材の搬入遅れの影響も受けたが、当初の予定をひと月延期した4月23日には限られたプレス関係者を招待した「原美術館ARC」の内覧会を実施、翌24日から一般公開する運びとなった。

A.学芸事項

今期において次の通り展覧会を開催した。

【1】原美術館

入館者数 29,304人 (令和元年度入館者数 53,246人)

2020年4月1日ー2021年1月11日(開館日数:163日)

※臨時休館:新型コロナウイルスによる臨時休館59日(4月1日ー6月8日)

※原美術館は、2021年1月11日をもって閉館した。

(1) 森村泰昌:エゴオブスクラ東京2020ーさまよえるニッポンの私

会期：2020年1月25日[土]ー7月12日[日]

会期予定4月12日[日]までの予定を7月12日[日]に延長

また、2月29日ー3月17日、3月28日ー6月8日まで

新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館

主催：原美術館

協賛：株式会社レジストアート

協力：一色事務所、千島土地株式会社、ジャパン・ソサエティー(ニューヨーク)

名画や映画の登場人物あるいは歴史上の人物に自らが扮するセルフポートレート作品で知られる森村泰昌は、巧みなメイクや衣装で、時代や人種、性別を超えて様々な人物に自らが成り代わり、制作を通して原作やその背景に独自の解釈を加えてきた。本展で森村は、日本近現代史、文化史に言及した。戦前の教えが否定され日本人に広がった「空虚」、そこは西洋の価値観で埋められていった、と作家は振り返る。1951年、大阪に生まれた森村は、その時代の日本で教育を受けた個人的経験から、やがて「真理や価値や思想というものは(中略)いくらでも自由に着替えることができるのだ。」(映像作品「エゴオブスクラ」より)という発想を導く。森村は耳慣れない言葉「エゴオブスクラ(Ego Obscura)」に「闇に包まれた曖昧な自我」という意味を込めた。愛情のみでは語りつくせない母国への複雑な感情をにじませながら、本展で森村は「さまよえるニッポンの私」とは何かを模索する。会期初めは、東京オリンピックに沸く年に、日本を見つめ直す機会として反響を呼び、主要な新聞に大々的に取り上げられるなど反響は大きかったが、コロナ禍の影響で、臨時休館を余儀なくされた。その後、感染防止対策を徹底しながら再開し、2020年7月12日[日]まで会期を延長し開催した。

<関連イベント>

レクチャーパフォーマンス：森村泰昌

2020年1月25日[土]・26日[日]／2月22日[土]・23日[日]16:00-17:00

※ 2020年3月20日[金・祝]・21日[土]／4月12日[日]は新型コロナ感染拡大防止のため中止

(2)「メルセデス・ベンツ アート・スコープ2018-2020」展

会期：2020年7月23日[木・祝]ー9月6日[日]

主催：原美術館、メルセデス・ベンツ日本株式会社

後援：ドイツ連邦共和国大使館

協力：ホルベイン画材株式会社

企画協力／レジデンスプログラム NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

「メルセデス・ベンツ アート・スコープ」は、1991年から続くメルセデス・ベンツ日本による、日本とドイツの間で、現代美術の作家を相互に派遣・招聘し、異文化での生活体験、創作活動を通して交流を図る文化・芸術支援活動である。原美術館では、2003年よりパートナーをつとめ、滞在の成果を発表する展覧会を開催している。今回は、新型コロナウイルス感染症が拡大の影響により、当初予定して

いた会期を短縮し、開催した。

本展は、日本からの派遣作家、久門剛史(2018年ベルリンへ派遣)、ドイツからの招聘作家、ハリス・エパミンダ(2019年東京へ招聘)、そして過去の「アート・スコープ」参加作家の中から招待出品作家として、小泉明郎(2010年ベルリンへ派遣)が出品した。作家の移動、作品の海外輸送、展示空間の使い方についてもこれまで通りとはいかない、いくつかの制限の下で、三人共に可能な表現を模索しながら、現在の状況に対峙する新作を発表した。

(3) 光一呼吸 時をすくう 5人

会期 2020年9月19日[土]-2021年1月11日[月・祝]

協賛(イベントへの協賛):一般財団法人 MRA ハウス

出品作家:今井智己、城戸保、佐藤時啓、佐藤雅晴、リー・キット

手に余る世界の情勢に翻弄され、日々のささやかな出来事や感情を記憶する間もなく過ぎ去ってしまいそうな2020年。慌ただしさの中で視界から外れてしまうものに眼差しを注ぎ、心に留め置くことはできないか——そのような想いから本展を企画した。出品作品は、今井智己、城戸保、佐藤時啓の写真を中心とする表現に加え、原美術館のコレクションから佐藤雅晴のアニメーションとリー・キットのインスタレーション。表れ方は異なるものの、そこにある時間や空間に光をあて、自身を取り巻く社会の息遣いをかたちにし続けている5人の作品を通して、意識されぬまま過ぎ去る時を掬(すく)い、見過ごされてしまいそうな光景を救って、2020年のディテールを記憶に残していけたらと考えた。

新型コロナウイルスの影響により、2020年春からの予定であった会期が変更され、東京の原美術館における最後の展覧会として開催されることとなり、展覧会の位置づけを再考せねばならない事態となったが、改めて“原美術館らしさ”を伝えるとともに、原美術館 ARC へと繋ぐ展覧会にすることを目的とすることとした。

● 出品作家および出品作品について

今井智己(いまい ともき)

1974年広島県生まれ。1998年東京藝術大学芸術学科卒業。本展では、福島第一原発から30km圏内の数カ所の山頂より原発建屋の方向にカメラを向けた『Semicircle Law』(2013-)に原美術館から同方角を捉えた新作を加えて展示。『真昼』(2001)や『光と重力』(2009)などの静謐さを湛える初期作品を併せて展示し、今井作品に通底する意識を探っていった。

城戸保(きど たもつ)

1974年三重県生まれ。2002年愛知県立芸術大学大学院美術研修科修了。城戸は「突然の無意味」と本人が表現する、何気ない日常風景の中で本来の役割や用途からズレた「もの」を捉え、「見る事やある事の不思議」を考察する。写真の構造にも関心をもち、色や光による構図の追求や技術的実験を試みる。本展では原美術館での撮影も行い、日常生活の延長線上に現れる豊かな世界を作品

化した。

佐藤時啓(さとう ときひろ)

1957年山形県生まれ。1981年東京藝術大学彫刻科卒業、1983年同大学大学院美術研究科修士課程修了。80年代より光、時間、空間、身体、生命をテーマに写真表現に取り組む。代表作『光一呼吸』は、長時間露光を駆使し、風景の中をペンライトや鏡を持って歩き回り、光と自身の移動の軌跡をフィルムに定着させるシリーズ。本展では、原美術館とハラ ミュージアム アークをモチーフに、デジタルカメラを用いた新たな『光一呼吸』を展示した。

佐藤雅晴(さとう まさはる)

1973年大分県生まれ、1999年東京藝術大学大学院修士課程修了。2000-2002年国立デュッセルドルフクンストアカデミー ガストシュラー。実写映像を忠実にトレースしたアニメーションで独自の表現を追求。本展では5年前に五輪へと向かう東京の姿を撮影しトレースした『東京尾行』(2015-2016年、原美術館蔵)を展示。実写とアニメの微かな差異が虚実の曖昧な新たな視覚体験を見る者にもたらした。2019年没。

リー・キット(李傑)

1978年香港生まれ。2008年香港中文大学美術学部修士課程修了。第55回ヴェネチアビエンナーレ香港代表(2013)。台北を拠点に各国の美術館やギャラリーで滞在制作を行う。制作する土地や展示空間の声を聞きながら日用品と絵画・映像を組み合わせる詩的な作品には、社会や政治への問題意識も内包されている。本展では原美術館コレクションから、人工光と展示室に差し込む自然光が相まった静謐なインスタレーション『Flowers』(2018年、原美術館蔵)を展示した。

<関連イベント>

鼎談:今井智己×城戸保×佐藤時啓 9月20日[日]14:00-15:30

佐藤時啓「リヤカメラで街をのぞいてみると…」

日時:10月3日[土]、10月17日[土]17日は雨天のため、10月18日[日]に順延

① 13:00~13:30 ② 13:40~14:10 ③ 14:20~14:50 ④ 15:00~15:30

城戸保「突然の無意味を探そう！」 日時:11月8日[日]14:00~15:30

今井智己「ルールの下での展示模型作り！」 日時:11月28日[土]14:00~15:30

静かなゲリラリサイタル 日時:9月30日[水]、10月18日[日]、11月18日[水]、12月18日[金]

【2】ハラ ミュージアム アーク

入館者数:12,017人(令和元年度入館者数 27,356人)

2020年4月1日-2020年11月3日(開館日数156日)

※新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令による臨時休館32日(4月10日-5月15日)

※大規模修繕工事、原美術館との統合のためのセミパーマネント作品移設工事等による長期休館
令和2年11月4日-令和3年4月23日

■ 現代美術ギャラリーA・B・C

(1) ザ・ポートレート-原美術館コレクション

会期:2020年3月14日[土]-7月5日[日]

※新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言発令により、4月10日[金]-5月15日[金]は臨時休館した。

出品作家:艾未未(アイ ウェイウェイ)/加藤 泉/クリスチャン ボルトンスキー/ジェームス ローゼンクイスト/ジャン デュビュッフェ/ジョナサン ボロフスキー/シンディ シャーマン/トレイシー エミン/奈良美智/ミカリーン トーマス/森村泰昌/やなぎみわ

(長期展示:草間彌生、東芋)

原美術館での「森村泰昌:エゴオブスクラ東京 2020」展の開催に合わせ、ハラ ミュージアム アークでも所蔵作品の中から森村泰昌による作品を中心としたテーマ展を企画した。名画の登場人物や歴史上の有名人、映画女優などに自らが扮するセルフポートレイトを手掛け、第一線で活躍を続ける森村泰昌。その「レンブラントシリーズ」(1994年作)全24点を中心に、現代美術史に名を残す国内外の作家たちによるポートレート作品の数々を紹介した。

(2) きぼうのかたち-原美術館コレクション

会期:2020年7月11日[土]-11月3日[火・祝]

出品作家:大竹伸朗/大平実/片山雅史/鬼頭健吾/クリスト/剣持和夫/シグマー ポルケ/杉本博司/高木由利子/鳴海暢平/ランチェスコ クレメンテ/増田佳江/森村泰昌/横尾忠則

(長期展示:草間彌生/東芋)

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、緊急事態宣言が発令され、ハラ ミュージアム アークも春季展会期中に32日間臨時休館した。世界中で人々が移動の自粛を強いられ、美術館や博物館が休館を続ける状況下で、家に居ながら美術や展覧会を楽しむ方法が前向きに模索され続けていた。このように美術鑑賞のあり方を今一度考えなおす機会を経て開催した「ハラ ミュージアム アーク」最後となる本展では、<きぼう>をテーマに、今を生きるアーティスト達による作品群40点を紹介。ウイルスという見えない敵と対峙することになった今、自分に生きる希望や喜びをもたらしてくれる何かについてそれぞれが真摯に考え、また、実際に美術館に訪れ美術作品に向かいあう体験について来場者とともに考え直す機会とした。

さらにギャラリーBの一室で、同年5月に永逝したクリストによる作品(10点)を合わせて展示する企画を行い、原理事長の追悼文も掲示。在りし日の姿を偲んだ。

■ 特別展示室 観海庵

(1) 原六郎コレクションの名品

前期:2020年3月14日[土]ー4月8日[水]※臨時休館31日間(4月10日ー5月13日)

後期:2020年5月16日[金]ー7月5日[日]※臨時休館1日間(5月15日)

※新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言により、4月9日[木]ー5月15日[金]は臨時休館した。

狩野派による「蘭亭図」や伝・蛇足「靈昭女図」など、東洋古美術からなる原六郎コレクションより、絵画・書蹟・工芸を選りすぐり展観した。ロバート ラウシェンバーグ、笹口数による、現代美術ギャラリーで開催中の「ザ・ポートレイトー原美術館コレクション」展の出品作品の一部を取り合わせた展示となった。

(2) 競演ー永徳・探幽・応挙

前期:2020年7月11日[土]ー9月9日[水]

後期:2020年9月11日[金]ー11月3日[火・祝]

本展では、桃山から江戸時代に活躍した三人の画人の作品を中心に紹介。桃山時代、大画面の襖絵など勇壮な障屏画を数多く手掛けた狩野永徳と、その孫で徳川幕府の御用絵師となった狩野探幽による水墨画の競演、また、狩野派とは一線を画し、自らの眼で確かめた風景や人物を写すことに徹して日本写生画の祖とされた円山応挙による鮮やかな彩色の「淀川兩岸図巻」を下図と合わせ展示。本図と下図の同じ場面を並列することは初めての試みであり、来館者からも好評だった。

【3】 刊行物

次の展覧会カタログを刊行した。

(1) 森村泰昌:エゴオブスクラ 2020-さまよえるニッポンの私 1,000冊(作成は前年度)

(2) 光ー呼吸 時をすくう5人 800冊

【4】新規購入作品



(1) 作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 Harabi#1
素材等:ピグメントプリント 150×197cm
制作年:2020年



(2) 作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 Harabi#2
素材等:ピグメントプリント 150×197cm
制作年:2020年



(3) 作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 Harabi#3
素材等:ピグメントプリント 150×197cm
制作年:2020年



(4) 作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 Harabi#4
素材等:ピグメントプリント 150×197cm
制作年:2020年



(5) 作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 Harabi#6
素材等:ピグメントプリント 197×150cm
制作年:2020年

【5】寄贈作品



(1) 作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 Harabi#5
素材等:ピグメントプリント 111.5×146cm
制作年:2020年



(2) 作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 Harabi#7
素材等:ピグメントプリント 197×150cm
制作年:2020年



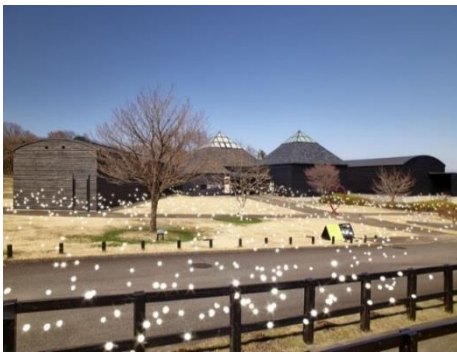
(3) 作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 Harabi#8
素材等:ピグメントプリント 197×150cm
制作年:2020年



(4) 作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 Harabi#9
素材等:ピグメントプリント 197×150cm
制作年:2020年



(5)作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 HaraArc#1
素材等:ピグメントプリント 111.5×146cm
制作年:2020年



(6)作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 HaraArc#2
素材等:ピグメントプリント 111.5×146cm
制作年:2020年

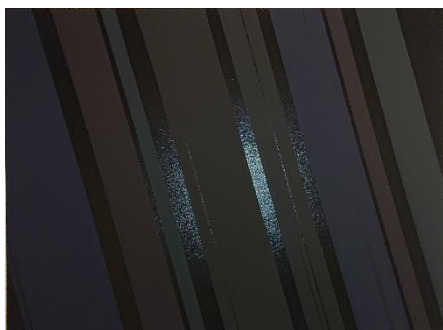


(7)作家名:佐藤時啓
作品名:光一呼吸 HaraArc#3
素材等:ピグメントプリント 50×60cm
制作年:2020年



(8)作家名:佐藤時啓
作品名:『「こんな夢をみた」一親指と人さし指は、
網目のすき間の旅をする一』
素材等:映像
制作年:2020年

【6】新規受託作品



(1)作家名:名和晃平
作品名:Direction #269
素材等:キャンバスに塗料 75×100×6cm
制作年:2019年
寄託者:若林哲也氏
受託期間:2020年4月8日～2023年4月7日



(2)作家名:内倉ひとみ
作品名:輝く細胞 VI
素材等・技法:レンズ、革、鏡、FRP 26.5×26×20cm
制作年:2020年
寄託者:内倉ひとみ氏
受託期間:2020年7月21日～2023年7月20日



(3)作家名:鈴木康広
作品名:日本列島のベンチ
素材等:ミクストメディア ベンチ 6.34×2.38m
切り株の年輪の床 15.33×8.19m
制作年:2014/2021年
寄託者:鈴木康広氏
受託期間:2021年3月18日～2024年3月17日

【7】受託解除作品



(1) 作家名: 鬼頭健吾

作品名: intersteller

素材等: ミクストメディア 297×1024 cm

制作年: 2016 年

寄託者: 鬼頭健吾氏

受託期間: 2018 年 4 月 1 日～2020 年 11 月 4 日

B. 普及事項

【1】講演会、教育プログラム等

本年度は下記の通り、14 件のイベントを開催した。

(1) 展覧会関連プログラム 「光ー呼吸 時をすくう 5 人」展

1. 鼎談: 今井智己×城戸保×佐藤時啓

日時: 9 月 20 日[日]

今井は芸術学、城戸は絵画、佐藤は彫刻と、それぞれ異なるバックグラウンドから写真表現へととり着いた 3 作家に、自身の制作や写真表現の可能性について話をしていただいた。コロナウイルス感染拡大防止のため観覧者の一般募集は行うことができなかったが、本イベントの様子を収録・編集し、YouTube にて配信している。なお、収録・編集作業は、若手作家やエンジニアへの機会提供のため、東京藝術大学佐藤時啓研究室の学生等に依頼した。

配信サイト: <https://www.youtube.com/watch?v=rRtMxw7Yos>

2. 佐藤時啓「リヤカメラで街をのぞいてみると…！」

日時: 10 月 3 日[土]、10 月 17 日[土]*17 日は雨天のため、10 月 18 日[日]に順延

①13:00～13:30 ②13:40～14:10③14:20～14:50 ④15:00～15:30

佐藤の発明品「リヤカメラ」は、カメラ・オブスクラ(小さな針穴をあけた暗室に外部の景色を映し出す装置)にリヤカーと自転車を組み合わせた、移動可能な巨大カメラ。そのリヤカメラに乗り込んで、原美術館周辺の街をのぞいてみるという試み。参加者にはいつもの景色が全く違うものに見える驚きの体験してもらった。なお、若手作家にワークショップ開催のノウハウを体験してもらうため、東京藝術大学佐藤時啓研究室の学生に手伝いを依頼した。

3. 城戸保「突然の無意味を探そう！」

日時: 11 月 8 日[日]14:00～15:30

「突然の無意味」は、城戸保の作品に近づくためのキーワード。我々の身の回りには「突然の無意味」としか言いようのない不思議な風景が溢れているが、忙しい日々の中ではなかなか視界に入ってこ

ないものだ。「なぜ?」「何?」と思うと同時にどこか愛着を覚える「突然の無意味」な風景写真を事前に参加者が撮影し、自慢のショットを持ってワークショップに参加した。また、作家による過去作品の説明、撮影の工夫、モチーフの選び方などの説明の他、参加者が持ち寄った「突然の無意味」写真を城戸が講評した。

城戸にとっては初めてのワークショップの開催となり、貴重な経験となったと本人が語っている。

4. 今井智己「ルールの下での展示模型作り！」

日時: 11月28日[土]14:00~15:30

今井の作品「Semicircle Law」では、半径30km圏内から福島第一原発建屋を撮影するという決まりを設けている。そして展示においても作品を見る鑑賞者の視線のその先に原発が位置する方向に壁を建てている。本ワークショップでは参加者それぞれが自分なりのルールを決め展示模型を作成した。例えば作品の大きさを全て揃えたり、同じ色調の作品だけをひとつの壁に展示したり。あえてルールを作りそれに向き合うことで、今井の作品展示との接点を増やしていった。今井にとっては初のワークショップ開催。作家として今後も同様のイベントを通して鑑賞者と関わる自信がついたと本人が語っている。

5. 静かなゲリラリサイタル

日時: 9月30日[水]、10月18日[日]、11月18日[水]、12月18日[金]

出品作家 佐藤雅晴の制作方法「トレース」にちなみ「静かなゲリラリサイタル」を4回開催した。イベントは事前告知せず、開館時間中に偶然遭遇するゲリラ形式とした。演奏とは作曲家の楽譜をトレースする行為。音大生からプロのピアニストまで計4人に演奏してもらい、演奏後は個性の異なる4人の演奏を自動ピアノがトレースし続けた。

(2) 配信イベントシリーズ「Hara X」

1. Hara X 山田タマル サンセットライブ

日時: 7月5日[日] 17:30~18:00 ライブ配信 / 18:00~19:00 メンバーのためのスペシャルライブ(配信なし) 見学者(美術館メンバー限定)

配信イベントシリーズのトップバッターにシンガーソングライターの山田タマルを迎え、中庭からオンライン配信を実施した。前半は演奏の様子をインターネットで配信し、後半は最後の年を迎える品川の美術館への想いを語りながら、収録を見学するメンバーのためのスペシャルライブとして伸びやかな演奏を披露した。

出演: 山田タマル(ボーカル)、光畑宏之(ギター)

会場: 原美術館 中庭

配信サイト(無料): <http://www.youtube.com/user/TAMARUofficial>

2. Hara X mama!milk 3つのコンサート「原美術館の朝、黄昏、夜」

日時:9月14日[月]朝のコンサート11:30~12:00、黄昏時のコンサート16:30~17:00、夜のコンサート20:00~ 見学者(美術館メンバー)

品川の美術館での出演回数が最も多い音楽デュオ mama! milk が、美術館の各所で朝、黄昏、夜の3つのコンサートを行った。曾我大穂をゲストに迎え、朝は見学者に向けた演奏風景をライブ配信、黄昏時には美術館屋上での演奏を録画し、夜はギャラリー内でひっそりと行われた公演の音のみを配信するという3つの異なる形の演奏・収録を試みた。当日のオンタイムのストリーミングに加え、収録したコンサートフィルムを期間限定で配信した。

演奏:生駒祐子(アコーディオン)、曾我大穂(フルート、テープレコーダーほか)、清水恒輔(コントラバス)

会場:原美術館 中庭、屋上、ギャラリーI

主催:株式会社イトウ音楽社

技術協力:KAAT 神奈川芸術劇場

企画制作:株式会社イトウ音楽社 Musica Moschata

配信サイト(有料):<http://www.mamamilk.net/schedule/18399/>

配信期間:9月18日~10月2日、アンコール配信:11月21日~2021年1月11日

3.Hara X 間を奏でる online concert

日時:10月4日[日]19:00-20:30

マイクやスピーカーなどのPAを一切使わない演奏で多くのファンを魅了する、ピアニスト林正樹率いる五重奏楽団「間を奏でる」の公演を配信した。アイリッシュハープ、ヴァイオリン、フレットレスベース、パーカッション、ピアノという珍しい編成のアンサンブルが奏でるアコースティックで美しい演奏は、優れた技術をもつ配信チームのおかげで配信イベントとしても質の高い内容となった。

出演:間を奏でる 林正樹(ピアノ)、堀米綾(アイリッシュハープ)、磯部舞子(ヴァイオリン、ヴィオラ)、織原良次(フレットレスベース)、小林武文(パーカッション)

会場:原美術館 中庭

音響:浜田純伸、伊藤豊

照明:三嶋聖子

配信サイト(有料):<https://ima-ticket.com/event/172>

配信期間:~ 11月4日

4.Hara X akiko

公演日時:10月5日[月]

名門ジャズ・レーベル「ヴァーヴ」より初の日本人アーティストとして鮮烈なデビューを飾り、ロック、クラブミュージックなど異なるジャンルアーティスト達との交流も深いジャズヴォーカリスト akiko が歌と朗読で紡ぐ品川最後のコンサートの記録を配信した。無観客公演。

出演: akiko (ボーカル、朗読)、坪口昌恭(ピアノ、シンセサイザー他)

会場:原美術館 階段、ギャラリーII サンプルームほか

映像:甲斐さやか

配信サイト(無料):<https://youtu.be/EUgLKkrMEL8>

配信期間:12月25日～

Hara X 北品川ゴーア라운드！2020

日時:2020年10月18日[日] 昼の部:子供向けアートワークショップ「ヒョーゲンのメメモ」11:00～12:30 / 13:30～15:00、夜の部:コンテンポラリーダンサーと先鋭的なシーンで活躍するミュージシャンによるライブ 18:00～20:00

北品川が立ち上げた新しいパフォーミングアーツ・フェスティバルの第一回目として開催。昼の部は子供たちがダンスや音楽を交えたアートワークショップを体験し、夜は注目のシンガーROTH BART BARONや人気バンドユニット「冬にわかれて」、ダンサー島地保武らが中庭で公演を行った。夜の公演は少人数の観客の前で披露され、同時にオンタイムでのライブ配信も行った。

出演:篠崎芽美、東泉一郎、ドワイ(子供向けアートワークショップ)、ROTH BART BARON、島地保武、冬にわかれて(ライブ)

会場:原美術館 中庭

企画・制作:北品川ゴーア라운드！実行委員会

制作協力:株式会社ボール、株式会社 COCOON

助成:しながわ文化プログラム推進事業

配信サイト(無料):<https://tayori.com/f/kitashinagawagoaround>

5.Hara X Ichiko Aoba quiet solo concert “Windswept Adan”

日時:2020年12月2日[水]20:00～20:45

弾き語りの傍ら、ナレーションや CM、舞台音楽の制作、芸術祭でのインスタレーション作品発表など、さまざまなフィールドで創作を行う多彩なアーティスト青葉市子が、架空の映画のためのサウンドトラックとして制作したアルバム「アダンの風」のリリース日にあわせてサンプルームで公演を行い、ライブ配信した。無観客公演。

会場:原美術館ギャラリーII サンプルーム

配信サイト(有料):<http://sstv.jp/aobaichiko>

配信期間:～12月27日

6.Hara X the sleeping beauty , 塩塚モエカ「ひかりの感触」

日時:11月15日[月]20:00-21:00、16日[火]18:00-18:30 見学者(美術館メンバー、16日のみ)。

12年ぶりの登場となった音楽デュオ the sleeping beauty と、若者から絶大な支持を得るオルタナティブロックバンド羊文学のボーカル塩塚モエカをゲストに迎え、それぞれが思い描く美術館らしい場所を舞台にライブ収録を行った。美術館に溢れる現実の光に、アートや音楽に触れた人の心に降り注

ぐ「ひかり」を重ねた美しい映像が好評だった。

出演: the sleeping beauty、塩塚モエカ

会場: 原美術館 階段踊り場、ホール等

企画: orange plus music、水色デザイン

映像プロジェクション: 水色デザイン

撮影: 寫村吉祥丸、薄田直樹、西垣薫

音響: 大場傑、福田新

照明: 佐藤円

配信サイト(有料): <https://orangeplus.me/lp/harax/>

配信期間: 2021年1月9日～1月23日

7.Hara X TWO - in transit Hara Museum

日時: 12月7日～14日収録

ピアニスト/美術家として世界中で挑戦に満ちたパフォーマンスやインスタレーションを仕掛ける向井山朋子が美術館の裏庭やギャラリー内でピアノの演奏を行い、ゲストに迎えた俳優・ダンサーの森山未来は常設作品「ゼロの空間」との対話を試みた。オランダを代表するシネマトグラファー、レニエ・ファン・ブルムレンが2人の競演を録画し、音楽とビジュアルストーリーを織り交ぜた音楽短編映画として、期間限定で発表した。

出演: 向井山朋子、森山未来

コンセプト・映像: 向井山朋子、レニエ・ファン・ブルムレン

撮影: レニエ・ファン・ブルムレン

技術監督: 遠藤豊

配信: LUFTZUG

衣装協力: Yoji Yamamoto

主催: 一般社団法人 マルタス

共催: 向井山朋子ファンデーション

助成: 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、オランダ舞台芸術財団

協力: 駐日オランダ王国大使館、河合楽器製作所、LUFTZUG

配信サイト(有料): <https://multus.tomoko.nl/>

配信期間: 2021年1月2日～2021年1月11日

(3)メンバー限定プログラム

1.メンバーアワー、特別鑑賞会

開館時間前後の美術館をメンバーのために特別開館し、普段は公開していない裏庭や屋上も開放した。

日時: 5月22日～7月11日の週末(森村展会期中、計7回)、8月1日～9月5日の週末(アート・

スコープ展会期中、計6回)、9月19日～2021年1月10日(光一呼吸 時をすくう展会期中、計19回)

【2】外部協力=講師、委員等

内田洋子 東京都現代美術館 美術資料収蔵委員会委員
一般社団法人全国美術館会議 理事
公益財団法人日本博物館協会 参事

青野和子 群馬県文化審議員
群馬県博物館連絡協議会 副会長
群馬県「アートによる地域創造会議」(座長:山本一太知事) 有識者委員

坪内雅美 学習院大学 博物館実習 非常勤講師

【3】所蔵作品の貸し出し

(1) 貸出先:江戸東京博物館

期間:2020年4月2日～6月30日

理由:「鬼才-江戸絵画の冒険者たち-」展への貸し出し出品のため
(同展は3館巡回したが、東京会場のみ貸し出し許可)

作家名:円山応挙

作品名:淀川両岸図巻 一巻

淀川両岸図巻画稿 一巻

計2点

(2) 貸出先:東京国立博物館 平成館

期間:(同館へ通年寄託中)

理由:東京国立博物館 平成館で開催の特別展「きもの KIMONO」展
後期会期 6/30-8/23 への出品のため

作家名:不詳

作品名:縄暖簾図屏風 (重要文化財)

(3) 貸出先:丸亀市猪熊源一郎記念美術館、東京新聞

期間:2020年9月7日～2021年1月20日

理由:2019年秋から東京国立近代美術館で開催された「窓展:窓をめぐるアートと建築の旅」展
の四国巡回。

作家名:ロバート ラウシェンバーグ

作品名:スリング ショット リット#5

- (4) 貸出先:愛知県美術館、東京都現代美術館
 期間:2020年12月2日-2021年10月31日
 理由:両館で巡回開催の「GENKYO 横尾忠則」展への貸し出し出品のため
 作家名:横尾忠則
 作品名:『戦後』(磯崎新によるスペシャルフレーム付き)
 『暗夜光路 眠れない街』
 『暗夜光路 2001年9月11日』
 『誰か故郷を想わざる』

計4点

- (5) 貸出先:新潟県立近代美術館、国立国際美術館、東京都現代美術館
 期間:2021年2月22日-2022年2月28日
 理由:上記3館を巡回する「Viva Video! 久保田成子展」への貸し出し出品のため
 作家名:久保田成子
 作品名:『デュシャンピアナ:自転車の車輪 1.2.3』

【4】受託作品の貸し出し

- (1) 貸出先:ティンゲリー美術館(スイス・バーゼル)
 期間:2020年2月25日-2021年4月19日
 理由:ティンゲリー美術館にて開催の泉太郎個展”ex”出品のため。
 作家名:泉太郎
 作品名:くすぐられる夢を見た気がする(雲が落ちる)
 寄託者:鳥越貴樹氏

【5】学校、団体来館の記録

- (1) 原美術館
 武蔵野美術大学(12名)他 1件
 <内訳>大学2件
- (2) ハラ ミュージアム アーク
 前橋工科大学総合デザイン工学科(45名) 他7件
 <内訳>中学校2件、大学・短大2件、その他4件

【6】ポスター・チラシなどの作成配布

- | | | |
|--|------|---------|
| (1) 原美術館 | ポスター | チラシ |
| 1. 森村泰昌:エゴオブスクラ東京 2020ー
さまよえるニッポンの私 | 500枚 | 20,000枚 |

2. メルセデス・ベンツ アート・スコープ 2018-2020	50 枚	13,000 枚
3. 光一呼吸 時をすくう 5 人	10 枚	20,000 枚

(2) ハラ ミュージアム アーク	ポスター	チラシ
1. ザ・ポートレート—原美術館コレクション	200枚	30,000枚
原六郎コレクションの名品	※制作は前年度末	
2. きぼうのかたち—原美術館コレクション		
競演—永徳・探幽・応挙	100 枚	30,000 枚

C. 広報

【1】原美術館

取材件数 計209件(和文媒体195件／外国語媒体14件)

<和文媒体>195件

2020年度は、コロナ禍と予約制の導入、原美術館の閉館という、これまでとは全く異なる状況下での広報活動となった。積極的な集客のためというよりも、正確な情報を適切なタイミングで周知することに尽力する1年になったと言える。

コロナ禍の影響としては、在宅勤務時の取材をメールインタビューや図版データの貸出しで対応し掲載につなげる、「メルセデス・ベンツ アート・スコープ 2018-2020」「光一呼吸 時をすくう5人」の2つの展覧会では、記者会見を少人数制で複数回開催することで、安全を確保するといった対策を行った。また、各媒体による動画配信コンテンツが増加し、クオリティにバラつきもみられたが、臨時休館や予約制導入により限られた人数しか見ることのできない展覧会にとって、有益な広報ツールとなったことも印象深い。

閉館に関しては、新聞(5大紙+東京新聞)に写真入りの比較的大きな掲載があった。理事長がどのような理念で活動を続けているか、また41年にわたる原美術館の活動について紹介してもらうことで、今後の原美術館ARCでの活動集約がポジティブな印象となることに重点を置いた。

また、当館のTwitter は昨年の約121,000人から124,600人、Instagramは約20,000人から27,640人へと順調にフォロワー数を伸ばしている。閉館日の1月11日には5000件を超えるツイートがあり、トレンド入りとなった。いずれの公式アカウントも原美術館から原美術館ARCへ引き継いでおり、今後も、有効活用していきたいと考える。

<外国語媒体> 14件

コロナ禍が生み出した大きな変化のひとつに、渡航規制のために海外からの旅行者がほぼいなくなったことだ。東京2020オリンピックパラリンピックも延期となったため、外国人来館者はほとんど見込めないとあきらめかけたが、想像に反して日本在住の方々が展覧会やイベントに参加してくださっ

たことは大変うれしい出来事であった。また、「Hara X」シリーズをはじめ、リモートでのイベントを多数企画したが、新しいこの試みは我々にとっても大きな収穫があった。それは海外からも同じ条件で参加が可能であることを実感したこと、また、作品を紹介する機会の少ない若手アーティストにとって、この新しいスタイルがまさに飛躍の場となる可能性を大いに秘めていることを実感したことである。この一年、外国語媒体からの問い合わせが減ったことは否めないが、人とのつながりを強く感じた一年でもあった。事務的な事項ばかりではなく、お互いの安否を気遣ったり、いつかお互いの国に行くことを思い描くなど、人と人の関係に魅了される時間でもあった。

コロナ禍は我々を窮地に立たせるだけではなく、開眼の機会を与えているようにも思う。既成概念に縛られず、柔軟なアイデア次第で「ステイホーム」しながら人々をつなぐことは可能なのである。これから原美術館ARCと世界の人々をどのように繋いでいくか。バイリンガル、できればアジア圏の言語も含めて、ホームページを充実させることは必要不可欠な基本と考える。人々に足を運んでいただくためには、言語的にも施設的にも、受け入れる側の充実した体制が求められるであろう。数十年後にどんな人が読んでも鮮明に蘇る、41年間の原美術館の歴史のアーカイブ制作も今後力を入れたいことのひとつである。原美術館が人々の中に生き続けるように、そして今後の原美術館ARCの活動が人々に感動を与え続けるけることを期待したい。

■展覧会 計161件(和文150件／外国語11件)

1. 「森村泰昌: エゴオブスクラ東京2020ーさまよえるニッポンの私」(2020/01/25-07/12) [和文13件／外国語2件] *4月から会期終了まで
2. 「メルセデス・ベンツ アート・スコープ 2018 - 2020」(2020/07/23-09/06) [和文25件／外国語0件]
3. 「光一呼吸 時をすくう5人」(2020/09/19-21/01/11) [和文112件／外国語9件]

■プロジェクト 計1 件(和文1件／外国語0件)

■施設 計47件 (和文44件/外国語3件)

1. カフェ ダール [和文0 件/外国語0件]
2. ザ・ミュージアムショップ [和文1件/外国語0件]
3. ロケ [和文0件/外国語0件]
4. その他 [和文2件/外国語0件]
5. 原美術館 [和文32件/外国語3件]
6. 原理事長インタビュー [和文1件/外国語0件]
7. 内田館長インタビュー [和文8件/外国語0件]

<掲載媒体> (和文／外国語、順不同)

【新聞】

日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、The Japan Times, The Japan News 他

【テレビ】

日曜美術館(NHKE-テレ)、WoW! Ho! TV(TOKYO MX TV)

【女性誌】

婦人画報(ハースト婦人画報社)、リンネル(宝島社)、HERS(光文社)、フィガロジャポン(CCCメディアアハウス)、SPUR(集英社)、オズマガジン(スターツ出版)、婦人公論(中央公論社)、Hanako(マガジンハウス)、Numéro Tokyo(扶桑社)、GINZA(マガジンハウス)、和楽(小学館)、MORE(集英社)、大人のおしゃれ手帖(宝島社)、In Red(宝島社)、CREA(株式会社文藝春秋)他

【男性誌・カルチャー誌】

CLUEL homme(CLUEL homme)、Men's FUDGE(株式会社三栄)、Casa BRUTUS(マガジンハウス)、T-Japan(朝日新聞出版)、ENGINE(新潮社)、Time Out Tokyo, Tokyo Art Beat, Tokyo Weekender magazine, Metropolis他

【美術・写真・建築デザイン・写真誌】

芸術新潮(新潮社)、GUIDE(ガイド)、月刊ギャラリー(ギャラリーステーション)、美術の窓(生活の友社)、アートコレクターズ(生活の友社)、美術手帖(美術出版社)、韓国月刊美術(Wolganmisool), Artscape Japan 他

【その他雑誌】

バジュール(JTBパブリッシング)、ディスカバージャパン(ディスカバージャパン)、日経大人のOFF(日経BPマーケティング)、CUT(株式会社ロッキングオン)アエラ(朝日新聞出版)、SODA(ぴあ)、月刊ブレーン(宣伝会議)、週刊金曜日(株式会社金曜日)、みな得情報(小池企画印刷) 他

【ガイドブック】

地球の歩き方(株式会社ダイヤモンド・ビッグ社)、東京半日散歩(昭文社)、JAPAN TRAVEL GUIDE, Go Tokyo, ArtCard Newsletter (Deutsche Bank), 東京トラベルガイド(韓国語、中国語、英語、日本語)他

【アプリなど】

ミューぼん(GADAGO)、TOKYO ART BEAT(GADAGO)、ナビタイム(ナビタイムジャパン) 他

【ウェブサイト】

IMA ONLINE(AMANA)、ART iT(ART iT)、Pen Online(CCC)、Figaro.jp(CCC)、Numero.jp(扶桑社)、美術手帖(美術出版社)、CINRA.NET(CINRA, Inc.) Dodooba.com, Tokyo Art Beat, Tokyo Weekender Magazine, Metropolis Magazine, Go Tokyo, ArtAsiaPacific, Contemporary Art Daily, Time Out Tokyo, photography-now.com, eHills Club 他

【2】ハラ ミュージアム アーク

取材件数 230件(和文媒体224件／外国語媒体6件)

今期もウェブ媒体(オフィシャルサイト、Art-iT、アートや旅行情報のポータルサイト、公式ツイッター、その他のSNS)、紙媒体(新聞、雑誌、フリーペーパー、旅行パンフレットなど)、電波媒体(テレビ、ラジオ)への広報を行った。原美術館とハラ ミュージアム アーク統合前の最後の年であったにも関わらず、新型コロナウイルス蔓延防止のため、移動の自粛が続き、広報活動も慎重にならざるを得ない状況が続いた。

本年も年間を通じて伊香保温泉旅館テレマップの広告を行った。こちらも伊香保温泉旅館の休業や宿泊者の減少により利用数は減ったが、対入館者数で分析すると利用率はほぼ変わらず、効果的だったことがわかる(2019年度2,162名利用/入館者数の12%、2020年度1,046名利用/入館者数の11%)。また2020年10月1日から「GoToトラベルキャンペーン」の「地域共通クーポン」の使用可能店舗に登録したことにより、主に伊香保方面からの旅行者による問い合わせが増え、実施期間にあたる10月1日から11月3日まで(休館まで)は2019年を越える入館者数となった(10/1-11/3間の入館者数 2019年:2,803名、2020年:2,943名)

展覧会別に見ると、「ザ・ポートレート-原美術館コレクション」展(会期:3月14日-7月5日)では、Aギャラリーに展示した森村泰昌によるレンブラントシリーズを中心に、作品や会場風景がメディアに多く取り上げられた。特に緊急事態宣言の発令下での臨時休館に入るまでの会期初旬(3月14日から4月9日)の間は、県内外の多くの美術館が休館しはじめていたため、テレビや新聞を中心に展覧会の取材依頼が比較的多く寄せられ、また臨時休館後、他館に先駆けて踏み切った再開館時には、展覧会開催の話題に併せて感染症拡散防止対策についての取り組みにも関心が集まり、安心して鑑賞できる環境であることを県内外の美術ファンにアピールすることが出来た。これらの対策については来館者アンケートでも高評価を得ている。

「きぼうのかたち-原美術館コレクション」(会期:6月30日-11月3日)は、コロナ禍でもあり積極的な広報活動はできなかったが、WEBや地元新聞を中心に手堅い広報を展開した。春季展に続いて展示をしていた森村泰昌による「レンブラントシリーズ」は来館者による写真撮影も可能としたため、引き続きSNSでの拡散も多くみられた。

10月には群馬県が主催する観光商談会に参加した。一部オンライン形式ではあったが、大手旅行会社の企画担当者と直接商談し、「原美術館ARC」改名や原美術館との統合、奈良美智や森村泰昌の人気作家の常設作品の移設について話題提供し、併せて開架式収蔵庫ツアーなど少人数での団体旅行のプランについてPRした。クラブツーリズム等からさっそく問い合わせと予約があり、(当面は新型コロナウイルス蔓延の状況次第で実行できるか慎重に判断しなくてはならないが)団体旅行の予約が入るなど成果が出ている。

2020年12月末頃より、渋川市が作成しているPR動画シリーズの「アルテナード編」が渋川市公YouTubeや駅のデジタルサイネージで公開され、本件以降、「原美術館ARC」の広報活動にシフトしてゆくこととなった。

また、Casa BRUTUSの特別編集「杉本博司が案内する おさらい日本の名建築」(マガジンハウスムック)での掲載もあり、引き続き美術館の建築への注目も高い。

■ 展覧会 計 175 件(和文 171 件／外国語 4 件)

1. ザ・ポートレイト 原美術館コレクション(2020年3月14日ー7月5日)
53件[和文52件／外国語1件]
2. 原六郎コレクションの名品(2020年3月14日ー7月5日) 29件[和文28件／外国語1件]
3. きぼうのかたちー原美術館コレクション(2020年7月11日ー11月3日)
59件[和文58件／外国語1件]
4. 競演ー永徳・探幽・応挙(2020年7月11日ー11月3日)
34件[和文33件／外国語1件]

■ イベント 計 9 件(和文 8 件／外国語 1 件)

1. SHOP@CAFÉ クリスト／内倉ひとみ 9件[和文8件／外国語1件]

■ 施設紹介、他 計 46 件(和文 45 件／外国語 1 件)

1. ハラ ミュージアム アーク 39件[和文38件／外国語1件]
2. カフェ ダール 1件[和文1件]
3. 原美術館閉館／アーク名称変更 3件[和文3件]
4. その他 3件[和文3件]

〈掲載媒体〉(和文／外国語、順不同)

【新聞】東京新聞、上毛新聞、朝日新聞、読売新聞、群馬よみうり、毎日新聞、日本経済新聞、産経新聞、桐生タイムス

【テレビ・ラジオ】「ほっとぐんま 630」(NHK 前橋)、「サタデーニュースジャスト」(群馬テレビ)

【美術・デザイン専門誌】月刊ギャラリー(ギャラリーステーション)、美術の窓(生活の友社)

【一般誌】Casa BRUTUS(マガジンハウス)

【女性誌】CLUEL(ザ・ブックスパブリッシング)

【情報誌】月刊 raifu(シンクリード)

【ガイドブック】るるぶ群馬 草津 伊香保 みなかみ(JTB パブリッシング)、まっふる群馬 22(昭文社)、まっふるドライブ関東甲信越ベスト'21(昭文社)、関東東北じゃらん(リクルート)

【ムック・書籍】Casa BRUTUS 特別編集マガジンハウスムック(マガジンハウス)、お出かけ群馬(ニューズライン)

【スマホアプリ】チラシミュージアム(イープラス)、ぴあ(ぴあ)

【ウェブサイト】美術手帖(BTCompany)、OIL by 美術手帖(BTCompany)、Internet Museum(丹青社)、TOKYO ART BEAT(GADAGO)、JDN(JDN)、日本美術著作権協会 JASPAR(一般社団法人)

日本美術著作権協会)、Shugo Arts(シュウゴアーツ)、ART360(ART360)、Walkerplus(KADOKAWA)、art scape(大日本印刷)、art commons(国立新美術館)、Art iT(アートイト)、美術展ナビ(読売新聞)、Yahoo!ロコ(ヤフー)、まなびねっとぐんま(群馬生涯学習センター)、goo 地図(NTT レゾナント)、伊香保づくし(伊香保温泉旅館協同組合)、渋川伊香保温泉観光協会(渋川伊香保温泉観光協会)、群馬デスティネーションキャンペーン(渋川伊香保温泉観光協会)、日本旅行(日本旅行)、Dokka!おでかけ探検隊(Dokka エンタープライズ)、J タウンネット(ジェイ・キャスト)、Mapion ニュース(ONE COMPATH)、ZAQ おでかけガイド(ジュピターテレコム)、BIGLOBE 旅行(ビッググローブ)、ウェブマガジン 月刊旅色(ランズ)、JR 東日本 観光スポット・イベント情報(JR 東日本)、JR おでかけネット(JR 西日本)、じゃらん(リクルート)、ぐんラボ(朝日印刷工業)、ぴあポイントサイト(ぴあ)、他

D. Hara Museum Web

www.haramuseum.or.jp

shop.haramuseum.or.jp

blog:www.art-it.asia/u/HaraMuseum

Twitter:@haramuseum

Instagram:@hara_museum

令和2年度の動き

原美術館、ハラ ミュージアム アークの活動集約およびハラ ミュージアム アークの館名変更に伴い、公式ウェブサイトのリニューアル(部分修正)を行った。館名表記や表示カラーの変更、コレクション作品写真の追加等、これまでの公式ウェブサイトの構造を活かした必要最小限の修正で、「原美術館 ARC」の情報が明確に伝わるページとなることを目指した。また、原美術館ページは今後もアーカイブとして引き続き公開の予定である。

<アクセスログ解析(<http://www.haramuseum.or.jp>)>

・アクセス数

*月平均訪問者数	2.7 万件	(昨年度 2.8 万件)
*月平均訪問件数	4.4 万件	(昨年度 4.3 万件)
*月平均閲覧ページ数	12.7 万ページ	(昨年度 14.7 万ページ)
*月別最多訪問者数	4.8 万件	(2020年12月 光-呼吸展)

E. 海外交流

【1】 招聘 なし

【2】 派遣 なし

F. メンバーシップ

【1】メンバーシップの動き

本年度は、コロナ禍で教育プログラムやメンバー向けイベントの開催が大きく制限された。そのため、感染拡大防止の観点から集客を伴う事業に代わり、オンライン配信事業をシリーズ化して実施した。出演アーティスト達は美術館の庭や館内の一部、あるいは美術館の建物全体を舞台に音楽やパフォーマンス、短編映画の制作を行い、インターネットを通じてオンタイムもしくはアーカイブとして配信し、美術館開館最後となる年に華を添えた。オンライン配信事業シリーズ配信の際、メンバーへの特典として、イベント毎に少人数分の客席を用意し、実空間でのライブを体験してもらった。原美術館、ハラ ミュージアム アークともに対面式イベントの開催は最小限となったが、オンライン配信という新たな方法により国内だけでなく海外の観客にアーティストの「今」を届けることが可能となった。パンデミック後もイベント開催時の選択肢として活用するべきと考える。

会費・会員数推移

令和2年度は品川の閉館に伴い、各カテゴリーでメンバーシップの継続が減少した。個人会員は一般・賛助ともに継続者数が落ち込む傍ら、品川最後の活動を見届けるべく入会を希望する新規の一般会員が多数見受けられた。法人会員は都内の美術館に限定したサポートを提供する企業の更新が打ち切られ、会費収入に影響を与えた。来年以降は原美術館ARCが位置する群馬県や周辺地域の企業へのアプローチを試みたい。なお、本年度はコロナ禍で十分な特典を提供できなかったため、継続者のうち希望する人にはメンバーシップの有効期限を1年間延長した。

令和2年度末における会員総数は192名。新規加入32件、継続加入160件。

(単位:円、消費税込)

平成30年度		令和元年度		令和2年度	
会員数	会費金額	会員数	会費金額	会員数	会費金額
303	12,499,080	262	11,432,640	192	8,159,346

【2】カテゴリー別会員数

フレンズ会員 167名、個人賛助会員 16名、法人賛助会員 9社

II. 庶務事項

A. 役員に関する事項

令和3年3月31日現在

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
評議員	麻生和子	R1.6.19		一般財団法人アジアン・カルチュラル・カウンシル日本財団 代表理事
評議員	大林剛郎	H23.11.1		株式会社大林組 代表取締役会長
評議員	佐藤陽一郎	H23.11.1		太陽グラントソントン税理士法人 代表社員 理事長 税理士
評議員	徳川義崇	H27.6.25		公益財団法人徳川黎明会 会長
評議員	原直道	H23.11.1		日本土地山林株式会社 代表取締役社長
評議員	丸山剛郎	H27.6.25		大阪大学名誉教授、特定非営利活動法人日本咬合学会 理事長、歯学博士
理事長	原俊夫	H23.11.1	常勤	日本土地山林株式会社 取締役会長
常務理事	原洋子	R1.6.19	常勤	株式会社アーテック 取締役
理事	江頭啓輔	H23.6.30		三菱ふそうトラック・バス株式会社 特別顧問
理事	國生肇	H23.6.30		國生肇法律事務所 弁護士
理事	坂本正	H23.6.30		学校法人高輪学園 理事長
理事	安田信	H23.6.30		株式会社安田信事務所 代表取締役社長
監事	千葉雄二	H27.6.25		千葉雄二税理士事務所 税理士
監事	野嶋慎一郎	H23.6.30		野嶋慎一郎法律事務所 弁護士

B.職員に関する事項

令和3年3月31日現在

所 属	主な役職者、部署別人数	担 当 業 務
原美術館	館長 内田洋子	美術館統括 主任学芸員
	学芸部 2名	学芸事項
	館長室 1名	国際プログラム事項 メンバーシップ事項
	管理部 1名	管理業務
ハラミュージアム アーク	館長 青野和子	美術館統括 主任学芸員 教育プログラム事項 作品管理事項
事務局	事務局長 加藤隆一	法人事務
合 計	7名	

〈備 考〉

- 1.上記の他、パート・アルバイトが常勤している。
- 2.令和3年4月1日付、「ハラミュージアム アーク」から「原美術館ARC」へ群馬県博物館登録原簿の名称変更登録を行った。
- 3.原美術館 館長 内田洋子は令和3年3月31日付をもって退任。

C. 役員会事項

1. 評議員会

【第1回開催】令和2年6月17日

議事

- (1) 令和元年度（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）事業内容報告及び計算書類審議の件

結果：1号議案については、審議の結果原案通り承認可決した。

【第2回開催】令和3年3月31日（決議の省略による）

議事

- (1) 基本財産一部処分の件

結果：令和3年3月8日、理事 原俊夫が評議員全員に対して上記評議員会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案つき、令和3年3月31日に評議員の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされた。

2. 理事会

【第1回開催】令和2年6月2日（決議の省略による）

議事

- (1) 令和元年度（平成31年4月1日から令和2年3月31日まで）事業報告内容を報告し、計算書類等承認決議の件
- (2) 定時評議員会招集決議の件

結果：令和2年5月27日、理事 原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案つき、令和2年6月2日に理事の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

【第2回開催】令和3年3月8日（決議の省略による）

議事

- (1) 基本財産一部処分の件
- (2) 評議員会への基本財産一部処分の提案の件

基本財産一部処分の件を評議員会の決議の目的である事項とし、評議員会の決議の省略により行うことを各評議員に提案する。

結果：令和3年2月16日、理事 原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案つき、令和3年3月8日に理事の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決

する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

【第3回開催】令和3年3月22日

議事

- (1) 古美術品寄附受け入れ承認の件
- (2) 令和3年度（令和3年4月1日より令和4年3月31日）事業計画及び収支予算承認の件
- (3) 重要人事異動承認の件

報告

- (1) 令和2年度（令和2年4月1日より令和3年2月28日現在）事業執行状況報告の件

結果：1号議案については、議長は、議長が所有している別添えの古美術品74点を当財団へ寄付したい旨を報告し、これを出席者一同に諮ったところ、全員一致をもって原案通り可決承認した。

2号議案については、令和3年度の事業計画及び収支予算について別添資料の通りとしたい旨とその内容を説明し、これを出席者一同に諮ったところ、全員一致をもって原案通り可決承認した。

3号議案については、議長は令和3年3月31日をもって「原美術館館長 退任内田洋子」の人事異動を行いたい旨を議場に諮ったところ、満場意義なく承認可決された。

D. 関連組織兼任事項

理事長原俊夫が役員を兼任する外部関連団体、役職

令和3年3月31日現在

1. ニューヨーク近代美術館国際評議会 名誉会員
2. ホノルル ミュージアム オブ アート 名誉評議員
3. 公益財団法人徳川黎明会 評議員
4. 公益財団法人大林財団 評議員
5. 学校法人高輪学園 評議員

E. 庶務

1. 博物館における青少年に対する学習機会の充実に関する基準、望ましい基準
東京都と群馬県に対し「青少年を対象にした取り組み等に関する実績報告」を令和2年6月26日にそれぞれ届出した。

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。